

令和7年度学校評価 計画

達成度(評価)
A: 十分達成できている C: やや不十分である
B: おおむね達成できている D: 不十分である

学校名	佐賀県立佐賀工業高等学校		
1 前年度 評価結果の概要	・今年度も引き続き、学校教育目標を達成すべく、年度初めに重点目標を定め、各評価項目について取り組んだ結果、12項目中「十分達成できた」評価が、7項目（前年度は、8項目）であった。次年度も、この水準を維持出来るように取り組む。 ・令和7年度佐賀県立高等学校入学者選抜一般選抜における本校の志願倍率は、1.30倍（前年度1.16倍）であった。次年度もこの水準を維持出来るよう学校のPR活動に取り組む。 ・3年生全員の進路保障をする事が出来た。185名(77%)が就職、54名(23%)が進学であった。就職試験対策等の指導体制が確立しており、1次試験合格率は、92.9%であった。今後も継続して個々の進路に応じた指導と県内就職率増に取り組む。		
2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標	○地域及び日本のものづくり界に専門性を有する人材を輩出してきた伝統を受け継ぐとともに、ロボット技術等の分野横断的な取組、先端技術と融合した教育を実践する。 ○技術革新が加速する時代において、地域及び日本の産業界を牽引し、高い倫理観をもって、人々が暮らしやすい安全性の高い社会を創造できる工業技術者を育成する。		
3 スクール ・ポリシー	アドミッション・ポリシー 1 基本的生活習慣を身に付け、目標や目的達成のためにあきらめず努力を続け、他者を思いやりながら協働できる生徒 2 各学科の学習に、興味を持って積極的に取り組み、専門性を高めようとする生徒 3 興味・関心の高い分野の活動、生徒会活動、部活動などに意欲的に取り組む生徒	カリキュラム・ポリシー 1 工業技術基礎、実習などにおいて、体系化されたものづくりを実施します。 2 少人数のグループで、議論や試行錯誤など課題解決に向けた取組を実施します。 3 課題研究では、ものづくりに関する「課題の設定」、「情報の収集・研究」、「製作・実験」、「整理・分析」、「まとめ・表現」などの探究活動を実施します。 4 1～3において、基礎知識・活用技術、主体的かつ協働的な在り方、探究のプロセスなどを学びます。 5 1～3において、地域の教育リソースやICTなどを活用し、実習テーマのアップデートを図りながら、先端技術と日々学んでいる基礎的内容の関連などを学びます。 6 バランスの取れた心身の成長を目指すために、各部活動では定期的な休養日を設定し、家庭学習と部活動などとの両立を図ります。	グラデュエーション・ポリシー 1 基本的な知識・技術を活かし、加速する技術革新に挑戦できる資質・能力の育成を目指します。 2 広い視野で産業界を牽引できる資質・能力の育成を目指します。 3 豊かな人間性と創造性を備え、倫理観と安全意識を持った社会に貢献できる工業技術者としての資質・能力の育成を目指します。
4 本年度の重点目標(案)	○SAGAスクール・ミッション、スクール・ポリシーを徹底し、工業技術者の育成を推進。 ○志願者数累増のため、本校PR活動の拡充。 ○進路ビジョン(仮称)に県内就職率向上等の進路指導方針をまとめたガイドラインの策定を実施。 ○校内外におけるいじめ・体罰等の未然防止を図る。 ○職員における服務規律徹底の実施。		

5 重点取組内容・成果指標					主な担当者(案)
(1)共通評価項目					
重点取組				具体的取組(案)	
評価項目	取組内容(案)	成果指標 (数値目標)(案)			
●学力の向上	○「わかる授業」の実践と学習意欲の向上に向けた学習指導の改善 ○生徒の思考、言語活動の充実と、主体的な学びの促進を重視した授業の実施	○「わかりやすい授業になっている」生徒80%以上 ○「深く考えたり、意見を述べたりする機会がある」生徒60%以上	・授業アンケート(年2回) ・教職員間相互授業参観(年1回)を実施する。	○教務主任 (主幹教諭、各学年主任、各教科・学科主任)	
	○資格取得の推進 ・各科における重点資格と検定試験の合格率の増加 ・ジュニアマイスター顕彰の取得者の増加	○「今年度、資格を取得した」生徒90%以上 ○ジュニアマイスター顕彰取得者数を100名以上	・科の職員や担任と連携して資格取得者を増やす。 ・難易度が高い資格・検定を積極的に挑戦させる。	○工業教育主任 各工業科主任	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○様々な教育活動で、「自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心等を涵養する事でできた」生徒90%以上	・特別活動における学校行事、生徒会活動、ホームルーム活動を通して、豊かな心を身に付けさせる教育活動を行う。 ・情報モラル、SOSの出し方、人権・同和教育等の講演会を実施し、様々な課題について考えさせる機会を設定する。 ・工場見学、インターンシップを通して、ものづくりの知見、将来への考えを深める。	○教務部 ○特別活動主任 情報管理部・保健厚生部 各学年主任	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校はいじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に行っている」と認識している生徒が80%以上 ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・学校生活アンケート(年3回) ・教職員やスクールカウンセラーとの連携を密にし、早期発見・早期対応に努める。 ・生徒が安心して学校生活を送ることができるように相談環境を整える。	○教育相談担当 生徒指導部 教頭	
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○睡眠、食事、運動を十分に取ることを意識した日々を送る生徒を90%以上	・食育アンケート(年1回) ・「保健だより」において、質の高い十分な睡眠、バランスの取れた食事、適度な運動の必要性について具体的な情報を掲載することで、生徒の意識付けを行う。	○保健厚生主事 食育推進担当者	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤推進日の取組のさらなる推進 ・年次休暇を取りやすい雰囲気醸成	○教頭 主幹教諭 教務部	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育を充実させ、特別な教育的支援を必要とする生徒を支える。	○「必要に応じて担任、部顧問、科の先生、または保健室や教育相談の先生等に相談ができる」生徒70%以上	・学級担任と教育相談係、養護教諭、スクールカウンセラー等が情報を共有し、適切な指導を行う。 ・新入生対象の特別支援教育会議を行い、学級担任、各工業科主任等と情報共有を行う。 ・特別支援教育に関する職員研修を行う。(年1回)	○教育相談担当 各学年主任	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					主な担当者
重点取組				具体的取組	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)			
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合80%以上、教職員の割合80%以上 ★県外からの体験入学参加者数40名以上、入学者数20名以上	・教務部、情報管理部と連携を図り、学校HP、体験入学等を通して高校魅力化の取組を推進する。 ・高校進学説明会等において、各工業科の特徴、ものづくりを紹介する。 ・SNS等を活用し、学校の魅力を中学校等に積極的に発信する。	○主幹教諭 各工業科主任 教務主任 情報管理部HP担当者	
○進路保障	○生徒・保護者の希望や要望をふまえ、担任・科職員と連携し、生徒の能力や適性を考慮した指導・助言を行う。	○進路意識の向上と、職業・勤労観を育成し、キャリア教育の推進を図る。 ○就職試験の1次合格률을95%以上を目指す。 ○4年制(工業系学部学科)大学、工業高等専門学校編入の合格者数5名以上を目指す。	・3学年団との密な連携を心がけ、進路に悩む生徒の情報を共有し、卒業後の就職・進学先でのミスマッチを防ぐ観点からも、担任、生徒・保護者への詳細な情報提供を行い、個人面談を積極的に行う。 ・進学者対策として、補習等で基礎学力だけでなく、応用力を向上させる。 ・面接や集団討議等の指導を早い時期より実施するなど、採用試験時の対策を行う。	○進路指導主事 3年学年主任・担任	
○部活動の充実	○部員を増やし、高校教育の目的(コミュニケーション能力の育成、幅広い人間関係の形成)、及び、学校部活動等に関する総合的なガイドラインに沿った部活動の推進	○部活動加入率90%以上を目指す。部活動に入り、コミュニケーション力がついたと実感できる生徒が80%以上を目指す。 ○外部指導者を2名以上確保する。 ○過当たり2日以上の休養日の設定を行う。	・部活動に所属していない生徒に入部の呼びかけを行う。 ・休養日調査の実施する。	○特別活動主任 部活動顧問	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり